

2013 年度春学期 日本理解に関する科目・授業概要

| | 授業科目名 Subject | 担当教員 Lecturer | 曜・期・教室 Period, Classroom | 目標 Aim | 内容とテキスト Course outline, Textbook |
|---|------------------|--------------------|-----------------------------|--|--|
| 日 本 の 文 化 と 社 会 * | 日本の文化と社会 A | 戸田 孝子 (とだ たか) | 木・2 N205 | この授業の狙いは、3つの活動によって、受講生である留学生が、日本の文化や社会についての理解を深めると同時に、日本語の表現力、読解力、討論の能力を身につけていくことを狙いとしている。 | <p>【内容】3つの活動とは、①日本の文化や社会について、留学生自らの体験や観察の中での発見した事柄について、母国のケースと比較しながら、そのポイントをより自然な日本語で作文し、これを発表する。②クラスメイトと、ディスカッションをして、皆がどのように感じ、思い、考えているのか聞いてみたい、日本の文化や社会に関する特定テーマを扱った記事を文献より探し、全員で読み内容を理解した後、小グループで意見交換し、最後にクラス討論に発展させる。</p> <p>③将来日本の企業に就職を考えている人のために、ビジネス日本語について、ロールプレイを持ちた楽しい演習を行う。【テキスト】共通に購入を義務づけるテキストはない。【評価方法】出席カード(授業での発表、討論の資料の提出、ロールプレイなど演習記録)の提出。学期末レポート(書式は、学期末に指示する)の提出。</p> |
| | 日本の文化と社会 C | 佐藤正光 (さとう まさみつ) | 木・1 C103 | 日本の文化や社会について、興味深い点や疑問を、受講生がそれぞれレポーターとして発表し、それにもとづいて全員で考察する。そこから外国人の考え方や日本人の考え方の共通点や相違点を明らかにし、日本の文化や社会を相対化しながら理解する。 | <p>【内容】1回の授業で2名のレポーターが日本の文化や社会についてテーマを決めて発表し、それについて全員で討論して理解を深める。発表では、①レジュメを作成し、②パワーポイントを使用すること。レジュメはA4用紙1～2枚程度、パワーポイントは写真や映像も利用して日本語で紹介できるように工夫すること。発表時間は10分、討論30分。一人2回程度発表してもらう予定。</p> <p>私からは日本人の一般的な考え方や、個人の考えを紹介する。テーマとしては、たとえば「桜と日本人」、「日本人の好きなスポーツ」、「日本のアニメの魅力」、「日本のエコ技術」など、テーマは限定しない。【テキスト】各自の発表レジュメを用いる。レジュメは事前に発表者が人数分を用意する。【評価方法】レポーターとしての発表内容を50%、出席と討論での発言などを平常点として10%、期末に提出するレポートを40%とし、総合して評価する。レポートは、自分が発表した内容をまとめ、A4用紙で4枚程度。</p> |

| | | | | | |
|--|------------|---------------------|---------------|--|---|
| | 日本の文化と社会 E | 二宮修治 (にのみや しゅうじ) | 月・1 N106 | 文化財保存科学の視点から、文化財保護法に定められた文化財の中から有形文化財（建造物、美術工芸品など）、記念物、文化的景観などを中心に取り上げ、日本の文化遺産の保存と活用に関する基礎的な調査・研究について理解を深める。また、文化財に及ぼす環境の影響評価を通して、日本の自然環境・社会環境の特徴を学ぶ。これらの知識をもとに、日本の文化財保護の体系へと発展させ、日本の文化と社会について考察する視点を養う。 | 【内容】文化財保存科学の目的は、文化財の構造と材質の究明、文化財のもつ内的要因とそれらを取り巻く環境（外的要因）によって生じる変化（劣化）の現象を解明し、文化財の保存と修復に役立たせることである。その内容としては文化財計測学、文化財材料学、文化財環境学、文化財保存修復技術との関連、という4本の柱である。日本を代表する文化遺産を取り上げ、有形文化財の構造と材質の解明、内的・外的要因との相互作用による変化について具体的な事例をもとに考察する。実験・実習を中心に理解を深めていく。また、関連する研究施設、博物館・美術館等の見学も予定している（希望者のみ）。【テキスト】授業内容に応じてプリントを配布する。【評価方法】・平常点評価（授業中に5回実施する見極めテスト）50%・学期末テスト 50% 見極めテストは、授業中に取り上げるテーマごとに5回行う。毎回10点満点で成績に算入する。学期末テストは、授業で取り上げた5テーマのうち最も興味・関心をもった内容に関して、より総合的に文献等を調べ、自ら考察したものを1,600字程度にまとめる（50%）。見極めテストからの発展性が高く、総合的に考察されたものを高く評価する。 |
| | 日本の文化と社会 G | 山本まり子 (やまもと まりこ) | 木・1 書実 III | 芸術性・実用性の両面から、書の分野について概略的に学び、日本の文化・社会への理解を深める。 | 【内容】講義形式に実践を交え、主に、下記①②③の学習を行う。 ①文字・書の歴史について学ぶ。②書の実用性を感じ、自らも表現を試みる。③実用に適した書の規範について学ぶ。 【テキスト】授業中、紹介する。【評価方法】受講状況（40%）提出物（40%）授業内試験（20%） *試験は下記「授業スケジュール」の通り、授業中、2回にわたって行う。各20分間。持ち込み（参照）可。追試は行わない。 |

*「日本の文化と社会 B・D・F・H」は、秋学期に開講します。「日本の文化と社会」の授業内容は、「大学ホームページ>学内ネットワーク>シラバス検索」からも見られます。

| | | | | | |
|----------------------------------|--------------------|---------------------|-------------|--|---|
| 日 本 研 究 科 目 ** | 日本研究 A (社会) | 高崎 恵 (たかさき めぐみ) | 水・1 S107 | (1) 日本の宗教の歴史を理解する (2) 日本で見られる宗教の特徴を理解する (3) 現代日本の宗教事情について知見を広め、自分なりの意見を持つ。 | 【日本は世俗化が進展し、大勢の日本人が自分に信仰はないと考えています。けれども、宗教を度外視しては現代日本の社会を理解できません。首相の靖国参拝は国内的にも国際的にも注目度の高い問題です。昨年日本の主要 14 チェーンのココンビニエンスストアが 5 万店舗を超えたが報じられましたが、仏教寺院は日本全国に 7 万以上存在しています。ムスリムは現在日本で増加の一途をたどっていますし、キリスト教は信徒数こそ人口の 1%程度と低迷しているものの、キリスト教結婚式は人気があり、教育、福祉、医療の分野ではキリスト教系の組織が非常に多いのが現状です。日本人が自分で考えているよりもずっと日本は宗教と緊密に結びついている社会なのです。この授業では、まず日本における宗教の歴史と、日本で見られる宗教の特徴を理解し、日本の社会における宗教のあり方について皆さんとともに考えたいと思います。受講生の皆さんには各自関心のあるテーマについて授業内で報告をしていただき、その内容を整理してレポートを提出していただきます。 【テキスト】特に定めません。【評価方法】平常点、発表、レポートを総合的に評価します。 |
| | 日本研究演習 B (人文) | 有澤知乃 (ありさわの) | 月・2 S407 | 日本各地に伝わる民俗芸能を通して、社会における芸能の役割や多様性を学びます。 | 【内容】日本の伝統芸能というと、能や歌舞伎が有名ですが、日本全国には他にも色々な芸能が伝承されています。この授業では、農村や漁村で人々が伝えてきた、演劇、人形芝居、神楽、民謡、獅子舞などの民俗芸能を、映像を見ながら学びます。各地の様々な芸能の歴史と変遷をたどりつつ、今日における民俗芸能の意義や役割について、みなさんと一緒に考えます。 【テキスト】とくに定めません。【評価方法】出席15%、発表25%、レポート60% |
| | 日本研究 C (教育) | 遠座 知恵 (えんざちえ) | 火・2 S206 | 歴史的な視点から日本の教育について学び、その特徴に対する理解を深めていく。自国の教育ともぜひ比較してみたい。 | 【内容】古代から現代までの「学校」に注目しながら、日本の教育の特徴について学んでいく。日本は古代から海外の影響を受けて発展してきた国であり、教育についてもその例外ではない。この授業では、それぞれの時代に、海外の影響を受けながら、日本でどのような教育が行われてきたのかを紹介していく。プリントやビデオなど、できるだけわかりやすい資料を使いながら授業を進めていく。 【テキスト】とくに用いない。読みやすい参考文献を紹介したいと考えている。 【評価方法】出席・授業内小レポート (40%) と学期末試験 (60%) で評価を行う。 |
| | 日本研究演習 D (環境教育) | 目代邦康 (もくだい くにやす) | 金・2 S207 | 湿潤変動帯にあり、四季のある日本列島の自然環境について学び、日本列島における人と自然との関係性を考えます。 | 【内容】自然災害の多い日本列島は、どのような環境にあるのか、地殻変動、長期的な気候変動、気象環境を踏まえて説明する。変動に富む日本列島の自然環境は、多くの場合、自然災害となる。それぞれの地域で、この自然災害をどのように防ぎ、受容してきたかについても紹介する。日本列島各地の多様な自然環境の理解を深めるため、ビデオや写真などを用いて、授業をすすめていく 【テキスト】目代邦康 (2011)「地形探検図鑑」誠文堂新光社。【成績評価】講義内での小テスト (50%)、レポート (50%) |

** 「日本研究 B・D」「日本研究演習 A・C」は、秋学期に開講します。